

コミュニティ・スクールだより



第35号

名張市教育委員会事務局発行
令和5（2023）年 2月10日

「意図」が見える コミュニティ・スクールの取組へ

充実したCSに向けて「意図」や「思い」の共有！

市内の小中学校では、新型コロナウイルス感染症が拡大して以降、授業参観や学校行事等、地域から来校いただく機会が減っています。同時に、地域の方と学校が互いの思いを共有する機会も、少なくなっています。コミュニティ・スクール（以下、「CS」）の取組には地域の方の参画が欠かせません。学校の課題を把握する中で、「この取組でこのような力を子どもたちに身に付けさせたい」など、取組に込められた「意図」や「思い」を学校と地域が共有することで、実践後の子どもの姿が違ってきます。より効果的な取組にするためにも、常日頃からの学校と地域住民や保護者との綿密な情報共有が重要となってきました。

学校運営協議会への教職員参加の工夫



全教職員参加の学校運営協議会
（薦原小学校）

学校運営協議会への学校側の参加者は、校長・教頭の管理職と一部の担当教職員というのが、多く見られます。教職員参加が進むことによって、学校と地域の関係性が向上する他、各種取組のスピード感や当事者意識も向上することが期待されます。

市内では、複数の学校で開催時期や時間等を工夫し、できるだけ多くの教職員が参加できるようにする動きが見られます。薦原小学校では、夏季休業期間中に、全教職員参加の学校運営協議会が開催され、子どもたちと触れ合う中で感じたことを、伝え合う機会を持ちました。学校運営協議会委員から出された意見をいくつか紹介します。

- ・「グングン先生」（子どもたちへの学習指導補助）では…（中略）…やり方を教えてできるようになったときにとっても喜んでくれる。自分も嬉しく、やりがいがある。」
- ・「センター職員が草刈や花壇の整備をするので、いつでも言ってほしい。」
- ・「ボランティアの活動は本当に楽しい」

薦原小学校の他、蔵持小学校、箕曲小学校、比奈知小学校においても、学校運営協議会への教職員の積極的な参加の取組が行われています。

CSと一体的に取り組む

「地域学校協働活動」とは・・・

地域づくり組織等において進める「地域学校協働活動」とは、地域住民、保護者、企業等、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「子どもを核とした地域づくり」を目指して、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。

＜地域学校協働活動の例＞

学びによるまちづくり・ 地域課題解決学習・郷土学習

- 地域資源を理解し、その魅力を伝えたり、地域活性化のための方策を考え、実行する学習活動
- 「ふるさと」について地域住民から学び、自ら地域について調べたり発表したりする学習活動
- 地域の産業や商店街の職場体験学習、郷土の伝統・文化芸能学習 など



放課後子ども教室

- 地域住民の参画を得て、放課後等に全ての児童を対象として行う、学習や体験・交流といった多様な活動



地域未来塾

- 全ての児童生徒を対象に、教員OBや大学生などの地域住民の協力によって行う学習支援



家庭教育支援活動

- 寄り添いが必要な子供、不登校傾向のある子供等への対応について、保護者が学び合う機会づくり など



学校に対する多様な協力活動

- 登下校の見守り、花壇や通学路等の学校周辺環境の整備、子供たちへの本の読み聞かせ、授業の補助や部活動の支援、企業等による出前授業等の教育プログラムの提供 など



地域の行事、イベント、お祭り、 ボランティア活動等への参画

- 地域イベントにおけるボランティア体験学習、伝統行事やお祭りでの伝統文化・芸能の発表や楽器の演奏、地域の防災訓練への参画 など



（文部科学省「これからの学校と地域」より）

文部科学省ではCSと地域学校協働活動の一体的推進を推奨！